



## (20)「ネット発展状況統計報告書」の解説2

野村総研(上海)咨询有限公司

中国インターネット情報センター(CNNIC=China Internet Network Information Center)が公開した「第19回インターネット発展状況統計報告書」は、中国人が携帯端末を通してインターネットにアクセスする状況を初めて整理しており興味深い。調査によると中国では、1700万ユーザーが携帯端末を通してインターネットにアクセスしている(以下モバイルインターネットユーザーと呼ぶ)。ここでいう携帯端末とは、携帯電話(モバイル・PHS)はもちろん、モバイルキャリアが販売しているノートPC用のアクセスカードも含まれている。

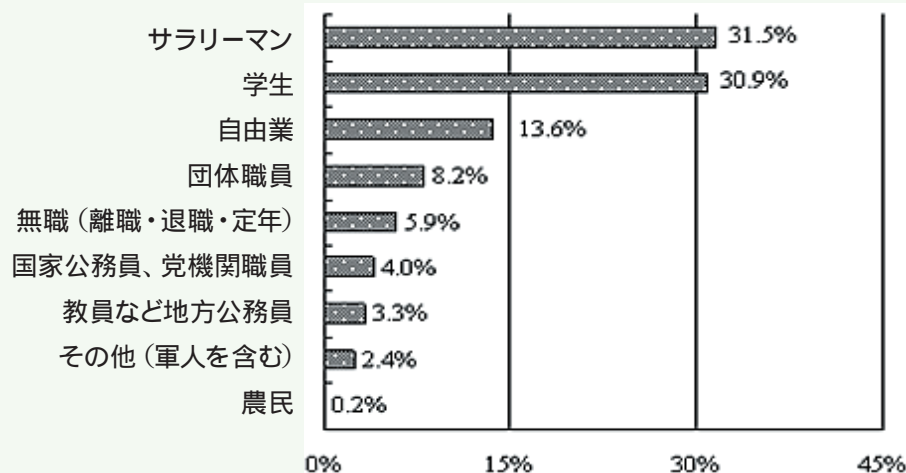
### ◇モバイルユーザーは「男性社会人」

モバイルインターネットユーザーのうち男性は67.8%で女性は32.2%を占めている。一方インターネットユーザー全体での比率は男性58.3%、女性41.7%で、モバイル活用は、男性比率が高い。

モバイルインターネットユーザーの属性を見てみると、会社に勤めている社会人が31.5%、その次に、学生が30.9%となっている。インターネットユーザー全体では、逆に、学生が32.3%で、社会人が29.7%である。おそらく、その理由としては、インターネットアクセスできる携帯端末の値段が若干高く、データ通信の利用料金が音声やショートメッセージサービス(SMS)以外にかかってしまう点がある。

モバイルインターネットアクセスへの不満としては、主に(1)利用料が高い(2)ダウンロードスピードが遅いのが挙げられている。2008年の北京五輪、10年の上海万博を契機にした、中国3G(第3世代)携帯サービスの開始・拡大への期待が大きい。

### モバイル・インターネット・ユーザーの職業分布(CNNICからの引用)



### ◇日系、万博までが正念場

06年12月末現在、中国携帯ユーザー数は既に4億6100万に達している。その内の1700万人が、モバイル・インターネット・ユーザーであり、まだ全体の4%しかいないことになる。

今後、モバイル・インターネット・サービスの拡大余地はまだまだあると考えられる。現状は、まだ、社会人向けの商用ニーズと学生向けの娯楽用ニーズのごく一部にとどまっている。

広帯域のモバイル・インターネット・サービスの先進マーケットである日本において、各種サービスを提供してきている日系のサービス事業者はこれまでに数々参入してきたが今からが正念場であろう。適切なパートナーを見つけて、中国人の嗜好(しこう)をうまく取り入れながら、巨大な中国市場で成功できるかどうかは、万博までのあと4年間で決まるだろう。

(主任コンサルタント 唐栄 / 総経理 中島久雄)

出所:「第19回インターネット発展状況統計報告書」2007/01/23